



『地球へ…』(全3巻)
著 竹宮 恵子
(中央公論新社)
1977年から1980年に発表されたAI統治社会を描くSF漫画。



『火の鳥』(全12巻)
著 手塚 治虫
(朝日新聞出版)
1954年から1988年に発表。壮大な歴史物語。「生命」をテーマとした哲学書とも言われています。



『寄生獣』(全10巻)
著 若明均
(講談社)
1990年から1995年に発表。過激な描写があるものの、哲学的な主題、テーマ性の高さなどが評価されています。



広島市まんが図書館
万屋先生もよく利用されている1997年に開館した、日本でも珍しい「まんが専門の図書館」。現在は約16万冊のまんがが資料を収集・保存し、貴重な本の閲覧や貸し出しもできます。さらに展示や講座も行い、漫画文化を広く伝えています。



研究の息抜きにドライブ
先生が家族で定期的に訪れる黄金山公園で撮った写真。9月上旬の澄んだ青空の下、瀬戸内海と安芸の山々を一望したり、地域猫たちと触れ合ったりすると、研究の疲れが癒やされるそうです。

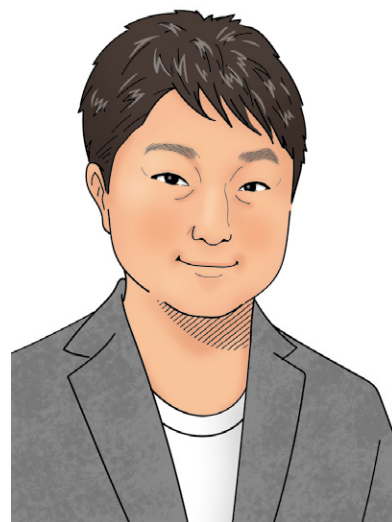
先生 教えて

研究っておもしろい!

大学や企業の研究室を訪ね、好奇心の芽を見つけよう!

第79回 SF漫画から学ぶ倫理学って?

今回の先生は…



広島工業大学 環境学部
建築デザイン学科
准教授
よろずや ひろゆき
万屋 博喜 先生

マンガとサクラのここに注目!



倫理学って、「なぜそうなのか」を考える学問なんだって。



考えて、自分なりの答えを持つのが大事なんだね。

倫理学を学ぶ3つの力と漫画から広がる学び

倫理学を学ぶことには3つの良さがあります。第一に、物事を多角的に見られることです。例えば「いじめ」を、いじめられる側・友人や先生など複数の視点から考えられます。第二に、自分で納得できる判断ができることです。例えば、校則で「髪の毛の長さは〇センチまで」と決まっても、「なぜその決まりがあるのか」「守ると何が得られるのか」を筋道立てて考えられます。第三に、社会のルールを問いつけることです。マスク着用のように常識は時代で変わりますし、それに応じてルールを見直すための考え方が得られます。倫理学は「そのルールは正しいのか」を考える視点を与えてくれます。

私は高校時代に校則に疑問を持ち、大学

で倫理学に出合っって視野が広がりました。現在は研究者として、漫画を活用した倫理学の授業を行っています。漫画は短時間で読める上に、フィクションということで安心して議論できます。特にSF漫画には科学技術社会や文明崩壊後の未来など、現実から少しズレた世界が描かれています。その「ズレた部分」を考えることが現実の問題を理解する手がかりになります。竹宮恵子さんの『地球へ…』では、人類がAIにすべてを委ねる未来が描かれ、「自分で考えることをやめてもよいのか?」という問いが突きつけられており、現代のAI社会にも響きます。『火の鳥』や『寄生獣』のように生命や差別を扱う作品も、「自分ならどうするか」と考えさせられます。私は今後、こうした作品を整理し、子どもから大人までを対象に、倫理学の教材として活用する方法を研究したいと考えています。

「道徳」と「倫理学」の違いと身近なつながり

倫理学とは、人として生きる上で守るべきルールや、善悪の判断について考える学問です。小中学校で学ぶ「道徳」とよく似ていますが、完全に同じではなく、一部が異なります。道徳では「こういう行いは良い」「これはしてはいけない」と学びますが、倫理学では「なぜそれが良いのか、悪いのか」「なぜしてはいけないのか」を一步深く考えます。例えば、友達との約束を守る時、道徳では「約束を破ってはいけない」と習いますが、倫理学では「なぜ守らなければならないのか?」と理由を考えます。いじめについても同じです。「なぜいじめは悪いのか?」「悪いとされる根拠は何か?」と根本から問い直すのです。日本では小中学校で道徳を学び、高校の倫理という教科で初めて倫理学を学びます。そのため、難しい問いにとまどい「倫理は難しい教科」と感じる人が多いのです。でも、実際には日常の小さな疑問、例えば約束や校則、友達との関わりに出てくる「なぜ?」「こそが倫理学につながります。倫理学は特別な学問ではなく、身近な疑問を深めて考える入り口なのです。

先生のことが、もっと知りたい♪

高校時代の私は、漫画やアニメ、ゲームが大好きでした。しかし、研究を続けるうち、作品を読んでも「授業に使えるかな?」と考え、純粋に楽しめなくなりました。今の趣味はドライブや料理です。好きなことを仕事にすると楽しい部分もありますが、自由に楽しめなくなる場合もあります。けれど環境が変われば人の興味は移ります。昔の趣味を失っても、新しい趣味を見つけられれば生活は豊かになります。柔軟に生き方を選ぶことこそ、前向きに生きる力だと感じています。